

(1) 大船
渡灣。

大船線建設工事概要

鐵道省盛岡建設事務所長 岡 田 實

今回大船渡・盛間の工事が竣功して、茲に一ノ關・盛間の全通を見るに至つたのは洵に喜ばしいことである。

本鐵道の沿革を見ると、大正7年の3月、寺内内閣の第40議會で輕便鐵道費中に一ノ關氣仙沼間として豫算を計上されたのが始りで、其時の建設計畫は大正9年度着手、大正13年度完成の豫定であつた。次で原内閣に至つて大正8年3月第41議會に於て更に氣仙沼・大船渡間を追加して工期を4個年繰延べ、昭和3年度完成となつた。次で加藤高明内閣の大正14年3月第50議會に於て建設工事の一般線延べを行つたので、本線も4個年繰延べ昭和7年度完成に変更され、濱口内閣に至つて昭和6年3月第59議會に於て更に1年繰延べ昭和8年度完成となり、次で齋藤内閣になつて昭和8年3月第64議會に於て大船渡、森間を追加し、完成年度を2個年繰延べて昭和10年度完成となつたものである。

以上の様な沿革を経て、大正9年4月測量に

着手して以來16個年餘の歳月を要し、延長106
軒餘の全通を見たのである。

一ノ關・盛間の土工、橋梁隧道等の路盤工
工事は18個工區に分けて、大正10年7月工事
に着手し、全部請負に付して施行した。軌道
工事は氣仙沼迄は直營で施行し、それから先
は全部請負に付したが、北上川橋梁の架設中
職員2名の犠牲者を出したことは甚だ遺憾な
ことであつた。

主なる工事は隧道23個所總延長4軒餘、橋梁
65個所總延長約2軒、土工盛土約239萬立方
米切取約194萬立方米で、總工費11,726,838圓、
1軒に付110,600圓餘に當る。

本線路は東北本線と所謂三陸沿岸線とを連
絡する重要線で、其一部は所謂三陸沿岸線と
なつてゐる。線路は一ノ關を起點として東南
に進み、北上川を渡り、摺澤、千厩、折壁を
經て宮城縣に入り氣仙沼町に至り、氣仙沼灣
を右に見て北進し、宮城岩手の縣界に飯森隧
道を貫き、再び岩手縣に出て廣田灣、大船渡



(2) 一ノ關町及一ノ關停車場の遠景。

灣の沿岸を掠めて盛町に至つてゐる。北上川の橋梁、飯森隧道等の工事施工には相當苦心を要したが、鋭意工事の進捗に努力した結果豫定通り全通を見るに至つたのである。之には當建設事務所員一同が終始一貫努力したのは勿論、請負者日本工業合資會社、合資會社有田組其他の諸氏が日夜工事の進捗に精勵せ

(3) 12 軒附近の北上川橋梁(延長 220 米)。



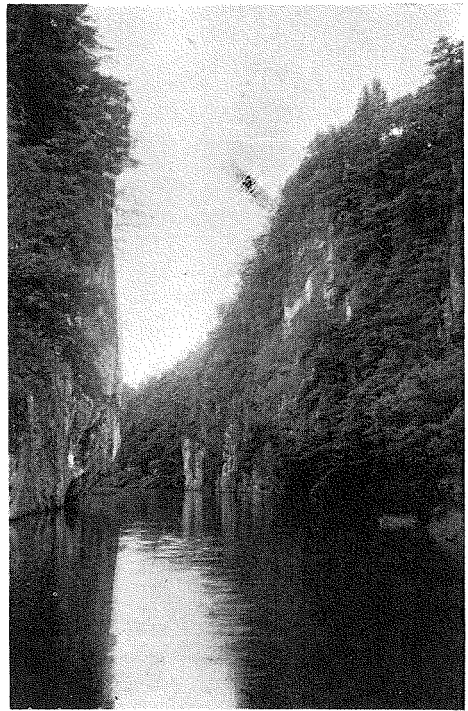
られたのと、地方官民諸賢の多年に亘る熱烈なる後援とに俟つた處が多いのであつて、此際に深く感謝の意を表したいのである。

本鐵道沿線は物資豊富にして殊に太平洋沿岸は氣候溫暖で風光明媚な個所多く、加ふるに所謂三陸の大漁場を控へてゐるのであるから、關係官民有力者諸賢が一致協力、以て本鐵道を充分に活用されて、文化の發展と産業の隆盛を計られ多年の宿望を達せられんことを冀ふと共に、沿線各町村の將來を祝福して止まぬ次第である。(岡田所長の談による)

線路狀勢

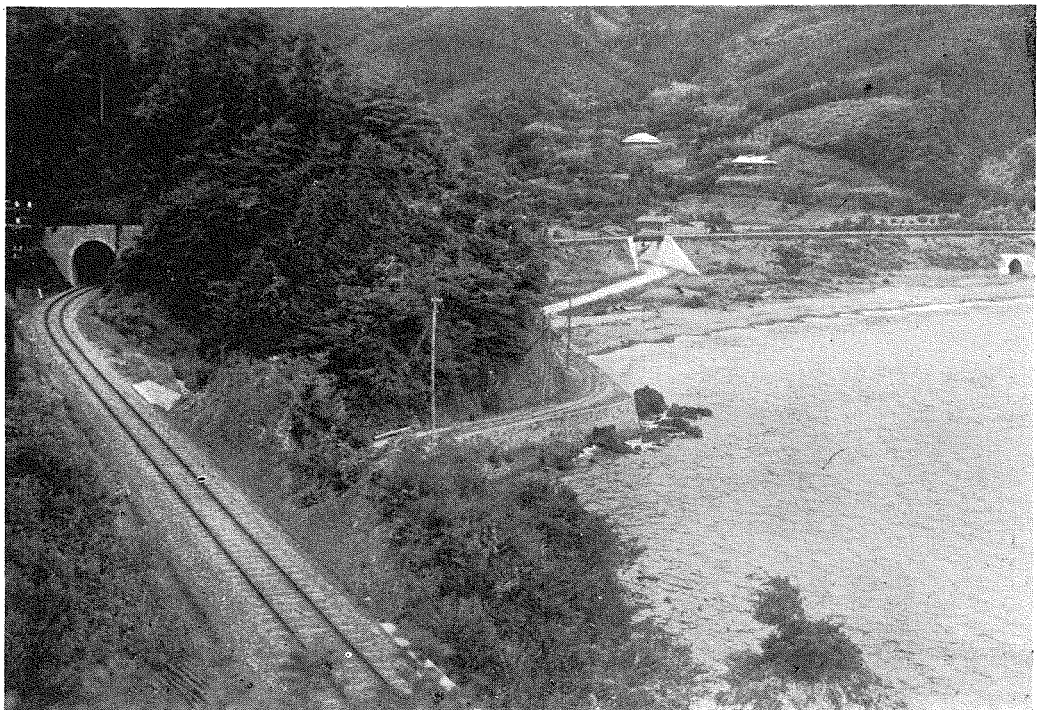
本線は東北本線上野起點141 軒400 米の一ノ關停車場(岩手縣磐井郡一ノ關町)を起點と

し、本線に沿ふて稍南進して真瀧村に入り真瀧停車場を設け、それより東南に走りて北上川に217米の橋梁を架し、横石の山腹を貫きて陸中門崎停車場に出で、砂鐵川に沿ふて北上し、陸中松川、摺澤の二停車場を設置して南下し、千厩停車場に至り、氣仙沼街道に沿ふて東進し、小梨、矢越、折壁、新月の4停車場を経て宮城縣に入り、狹隘嶮岨なる大川の流域を縫ひ、氣仙沼町に入り氣仙沼停車場を設け、左折して高田街道に沿ひ北進し、鹿折、上鹿折の2停車場を設置し、漸次上登して宮城岩手の縣界に延長1軒10米の飯森隧道を貫き、再び岩手縣に入り陸前矢作停車場を経て氣仙川を渡り、竹駒停車場を設く、それより右折して高田町に至り陸前高田停車場を設置し、縣道に沿ふて北進し廣田灣に臨み脇ノ澤停車場を設け小友停車場を過りて更に北進し大船渡沿岸に細浦、下船渡、大船渡の停車場を設け、盛町に入りて盛停車場を設



(4) 陸中松川驛附近の貌鼻溪。

(5) 97軒附近より船河原を望む。





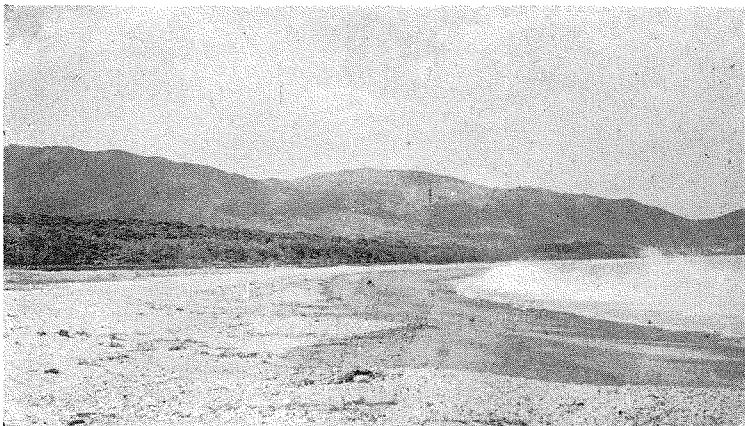
(6) 73 杆附近 飯森隧道 (延長 1.009 米)

置せり。

本線の總延長は106杆003米、最急勾配は1000分の25、最小曲線半徑は200米とし、路面幅4米20、軌條面は施工基面より40糎にして、總工費1,170餘萬圓を要せり。工費明細は別表の通りとす。

沿線名勝舊蹟及物産

(7) 陸前高田驛附近の高田松原。



貌鼻溪 陸中松川驛東方約2杆、長坂村地内砂鐵川の upstream にして、風致絶佳、勝域の盡くる所巖壁崔嵬高さ千仞、其中腹に突出せる鐘乳岩貌頭に似て此名あり。探勝者多し。

千厩跡 千厩驛西方約3杆500米、往昔將軍藤原秀衡此地に軍馬千頭を育成せりと傳へ地名を爲し、其厩跡と舍稱せらる。

室根山 折壁驛の北方約 杆500米、海

拔895米、東磐井、本吉、氣仙の3郡に跨り北上山脉に聳立し、四邊重疊たる峯巒を繞らし南方髣髴として太平洋を展望し得、奥羽富士の別名あり往昔は鬼首山と呼びしも養老年間紀州牟婁郡より熊野神社を勸請し牟婁峯山と改稱すと傳へられ、頂上に慈覺大師の修行場と稱せらる、護摩壇跡又南麓には天臺院主學頭及別當等48坊の遺跡あり。

尾崎海岸 氣仙沼驛の南方約6杆、白砂青松、前方に大島龜山を望み海水浴場の設備あり、還境靜寂夏期の行樂に適す。

高田松原、陸前高田驛南方約1杆、白砂長汀數杆に亘り、老松鬱蒼として萬籟颯爽眞に清氣を覺え風光絶佳なり。

椿島 小友驛東南方約7杆500米、廣田



(7) 氣 仙 沼 港。

岬の突端海上約1軒の小島にして全島椿を以て蔽れ南國の情緒に富む。鷺、鷗、うと等群棲し天然記念物として指定さる。

碁石岬 細浦驛東南方約8軒、風光明媚なる筆舌の盡し難き處、宛然仙境の感あり。

主要物産 米、麥、大豆、果實、繭、生糸、木材、木炭、煙草、清酒、魚貝、水産製造物。

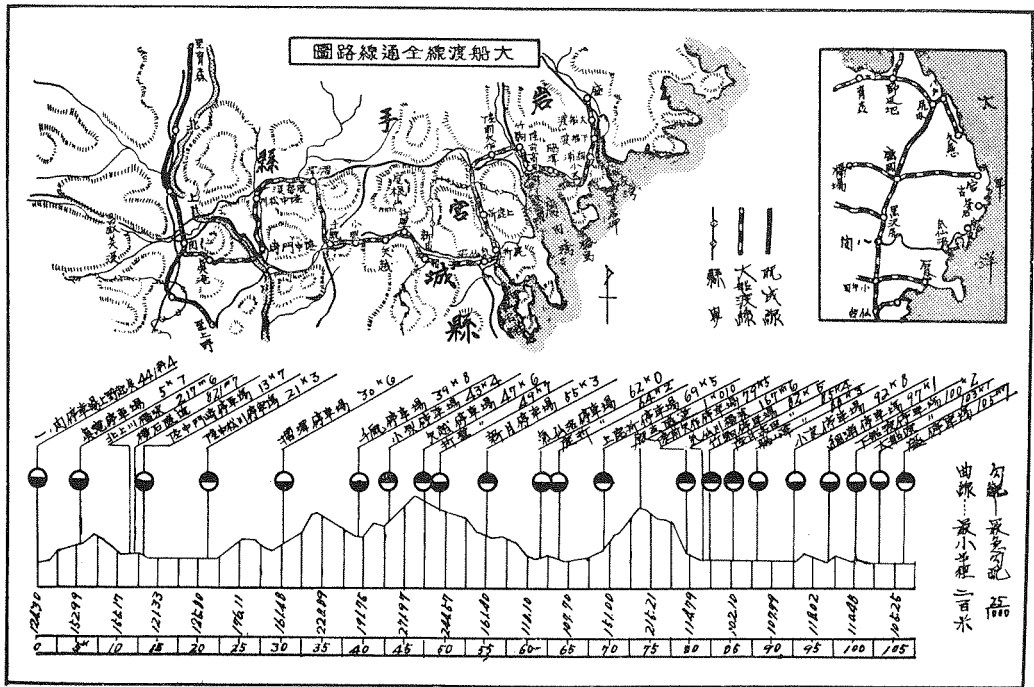
(9) 98軒附近より大船度方を服む。





土 工 々 事

工 區 名	區 間	延 長(米)	請 負 金 額(圓)	着 手 竣 功	請 負 人
第一工區	一ノ關、彌 榮	11,065	397,800	大正 10, 7 12, 1	日本工業合資會社
第二工區	彌 榮、門 崎	3,822	507,850	〃 〃 〃 11, 4 12, 12	同
第三工區	門 崎、松 川	6,719	347,800	〃 〃 〃 11, 7 13, 1	同
第四工區	松 川、摺 澤	9,012	606,655	〃 〃 〃 12, 5 13, 12	同
第五工區	摺 澤、柳澤田	6,297	143,000	〃 〃 〃 14, 10 15, 10	有 田 芳 太 郎
第六工區	柳澤田、神田橋	4,486	259,800	〃 〃 〃 15, 2 昭 和 2, 6	同
第七工區	神田橋、折 壁	8,207	318,000	大 正 15, 10 昭 和 3, 6	同
第八工區	折 壁、新 月	6,840	44,000	〃 〃 〃 3, 3 3, 12	同
第九工區	新 月、氣仙沼	5,492	336,000	〃 〃 〃 2, 11 4, 1	同
第十工區	氣仙沼、上鹿折	7,758	472,000	〃 〃 〃 4, 4 5, 12	同
第十一工區	上鹿折、白 石	2,200	133,400	〃 〃 〃 7, 2 7, 10	合資會社 有田組
第十二工區	白 石、飯 森	3,555	515,500	〃 〃 〃 4, 7 6, 6	有 田 芳 太 郎
第十三工區	飯 森、下矢作	3,945	396,000	〃 〃 〃 6, 7 7, 9	合資會社 有田組
第十四工區	下矢作、高 田	5,700	186,800	〃 〃 〃 7, 6 8, 6	同
第十五工區	高 田、小 友	6,360	84,400	〃 〃 〃 7, 9 8, 9	同
第十六工區	小 友、細 浦	4,395	167,800	〃 〃 〃 7, 11 8, 11	同
第十七工區	細 浦、大船渡	5,825	198,800	〃 〃 〃 8, 1 9, 3	同
第十八工區	大船渡、盛	2,740	38,700	〃 〃 〃 9, 8 10, 5	同



建設費額

費目	金額	費目	金額
測量費	69,291圓	諸建物費	307,766圓
用地費	1,324,462圓	運送費	313,050圓
土工費	3,585,287圓	建築用汽車費	131,697圓
橋梁費	1,194,661圓	建築用具費	119,649圓
溝橋費	327,680圓	柵垣及境界杭費	14,140圓
伏樋費	145,168圓	電線費	159,919圓
隧道費	1,882,311圓	防火防雪費	323,839圓
軌道費	1,491,959圓	計	11,726,839圓
停車場費	335,960圓	一畝當り	110,631圓

工事關係者

所長 金子寬・石川鼎
 渡邊直也・小野諒兄・安倍強
 今村眞護喜・清水三藏・佐武正一
 高井信一・長屋脩・岡田實
 擔任技師 佐橋信一・淺間逸雄
 田中惠・近藤鐵太郎・沼田秀雄

下村忠治・千葉菊太郎・吉原正明
 小出製治郎

工區主任 名淵多四郎・上山經亮
 河合一喜・山田建吉・鈴木保
 上野研一郎・佐々木善八・安田新
 村岡環・小磯小四郎・穴戸忠雄
 工藤嘉一郎・福井亮三・一條修治
 今岡鶴吉・今井喜次郎